

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

商・渡辺教授 都と共同事業

「カレープロジェクト」

本来は食べられるのに捨てられる「食品ロス」の問題解決につなげようと、「カレープロジェクト」を企画したのは、渡辺達朗商学部教授の授業を履修する野田かれんさん、西山真結子さん、櫻井千陽さん、陸蓮さん、渡部雄太さん(いずれも商3)。野菜の仕入れ先農家や飲食店などとの交渉を行い、SNSで情報発信している。

11月20日、神田キャンパス10号館にMILLIANのキッチンカーが出店した。学生らが仕入れた、規格外のトウモロコシが入ったキーマカレーや無農薬野菜で作った野菜カレーなどを提供した。学生たちは道行く人にチラシを配り、集客に努めた。

また、カレーの町として知られる神田地区の名店が2店協力した。20、21の両日、マジカレー神保町店とwata軒で、余剰野菜を使ったカレーが提供され、人気を集めた。

野田さんは「おいしいカレーをきっかけにして、一人一人が食品ロスを減らすために何ができるか考え、行動してもらえれば」と語った。

「食べて解決 食品ロス」

オンライン公開シンポジウム

「コロナ禍での暮らしと食生活」



滝沢さんがごみ収集から見える食品廃棄の現状を報告

専修大学と一般社団法人サスティナブルフードチェーン協議会(SFA)が、東京都環境局と連携し主催した公開シンポジウム「コロナ禍での暮らしと食生活」が11月11日、オンラインで開催された。お笑い芸人ごみ清掃員でもあるマシガンズ(マシガンズ)の滝沢秀一さんと有識者2氏が、SDGsの観点から「食」を取り巻く課題について意見を交わした。

愛知工業大学教授でSFA代表理事を務める小林富雄氏は、ポストコロナ社会の食品ロス対策としてフードサステイナブルチェーンの質的需給調整について言及。学校給食における食品ロスの問題にも触れ、食事時間を長く確保することで食残しが減った京都の小学校の事例を紹介した。

シンポジウム終了後には、渡辺ゼミとSFAが共同して構築している、食とサステナビリティに関するオンラインコミュニティプラットフォーム「ハニコミ」の内容説明が行われた。

食品ロスゼロアクションコンテスト ベジコミが入賞



運営メンバー全員で、賞の「とんがりコーン」を手に

国連WFP協会が実施した「ゼロハンガーチャレンジ」の食品ロスゼロアクションコンテストで商学部の学生が運営するインスタグラム「VEGECOMM(ベジコミ)」が入賞した。

「ゼロハンガーチャレンジ」は、9〜10月に実施。コロナ禍でもできる社会貢献活動として、食品ロス削減の取り組みをSNSに投稿すると、1投稿当たり120円が途上の学校給食支援に寄付される。

ベジコミはベジタブルコミュニティの略。食を通して、農家や飲食店、地域住民、学生がつながるオンラインコミュニティ構築に向け、野菜を使ったレシピや野菜の保存方法などの情報を発信している。メンバーは、商学部渡辺達朗ゼミの高橋亮斗さん、寺田穂菜さん、大坂屋奈奈さん、古澤佑依さん、中村絢音さん(いずれも商3)。

ゼロハンガーチャレンジへの投稿1万4588件の中から、優れた投稿15件に賞が贈られ、ベジコミは「とんがりコーン賞」に選ばれた。

メンバーは「1人暮らしの大学生でも簡単に作れる料理を実践し公開した。これからは食品ロスを解消し、人々をつなげるコミュニティづくりを貢献したい」と話している。



ベジコミのインスタグラム

専用学生寮オープン

2021年4月



白山



生田

2021年4月、専用学生寮が神田キャンパスと生田キャンパスの近くにオープンする。完全個室で家具や備品を完備。朝・夕の食事付きか、食事なしかを選ぶことができる。寮長が住み込みで常駐し、寮生同士が交流するイベントも予定している。

いずれも男女共用、定員51人。所在地は文京区白山と神奈川県川崎市多摩区南生田。運営は株式会社共立メンテナンス。詳細は <https://www.dormy-gakui.chi.com/senshu/>

2教員に感謝状

オンライン授業に尽力

佐々木重人学長は11月、望月俊男ネットワーク情報学部准教授と金井雅之人間科学部教授に感謝状を贈った。

望月准教授は専門の教育学の観点からオンライン授業の方法を構築し、マニュアルの作成や教員のサポートに当たった。金井教授は大学が全学部生に対して実施したオンライン授業アンケートについて、社会調査の観点から分析、大学に助言した。

佐々木学長は「それぞれ

れの専門分野を生かし、オンライン授業の対策を立て、また詳細に分析していただいたことで、困難な状況に向かうことができた」と感謝を述べた。

現状を生み出した歴史的経緯を踏まえ、六つの視点から分析している。第1章では長野県を対象にグローバル化・デジタル化と地域困難との関係、第2章では雇用の地域格差と労働生産性との関係、第3章では東北地方中山間地における貧困と住民の意識との関係、第4章では鉄道敷設と地域開発の関係、第5章では老朽インフラを念頭に記した論文集である。

本書では現下の日本の地域経済・社会を、その

専修人の新しい本



宮崎晃臣 編著

本書は2018年5月から6回にわたって実施された専修大学経済学部公開講座「日本における地域経済・社会の現状と歴史」を基に、各講演者がその後の考察も加えて

最終講義のご案内

本年度、最終講義を行うのは次の方々です。オンライン配信も行います。

上田和勇 商学部教授

- ◆ 1月15日(金) 4限(14:50~16:20)
- ◆ 神田10号館10031教室(黒門ホール)

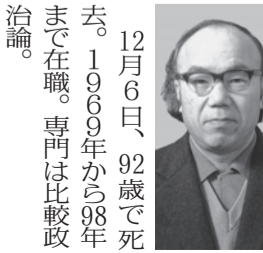
寺尾 格 国際コミュニケーション学部教授

- ◆ 1月20日(水) 4限(14:50~16:20)
- ◆ 神田10号館10031教室(黒門ホール)



熊野剛雄氏(くまの・よしお) 名誉教授・元経営学部教授

11月24日、94歳で死去。1977年から97年まで在職。専門は経済学概論。



柴田敏夫氏(しばた・としお) 名誉教授・元法学部教授

12月6日、92歳で死去。1969年から98年まで在職。専門は比較政治論。



石川敏男氏(いしかわ・としお) 名誉教授・元経営学部教授

11月29日、88歳で死去。1963年から2003年まで在職。専門は英語。

MIZUHO

みずほ信託銀行

One MIZUHO

信託をより身近に、明日をより豊かに。

資産運用・管理、不動産、相続・遺言など、ご資産に関するさまざまな問題にみずほ信託銀行は長年にわたり培ったノウハウを活かし、お客さまお一人おひとりのニーズに即したソリューションをご提供いたします。

One MIZUHO